

平成24年度事業計画

自 平成24年4月1日

至 平成25年3月31日

1 はじめに

金谷地区の芸術文化を振興し、金谷美術館の使命、地域文化のシンボルとしての趣旨を踏まえ、創造性にとみ、より柔軟な基本的な考え方をもとに、美術館の施設の機能と地域の自然環境、地域文化、地域の人材を最大限に生かしながら効率的、効果的な運営を行い、平成24年度事業を着実に実行することとする

また、金谷美術館の最大の理念である「美しいもの大切なものを、みんなで伝えのこし生かしていく美術館」を実現するために、この理念を基本に平成24年度事業を前広に展開して行くこととする。

2 基本方針

当法人の平成23年度の収支計算書（見込み）から見ると、事業活動収支差額は1,500万円強のマイナスが見込まれる。この様な経営環境における事業計画の出来るだけ財政負担の少ない展観事業を効率的に取捨選択し、限られた予算の中で入館者数の増加につながる特別展等を企画し、展観事業を推進して行かなければならない。

このような現状を踏まえ、冷静にこの現状を分析し、金谷美術館が未来永劫、地域のまちづくりの核として存続するためには、第一に実現することは、最低でも必要とされる年間美術館の直接的な運営管理費2,600万円強を入館料でまかなうことができるように、入館者を増やすことにある。

この課題の克服の具体的な方策を講じることが、当美術館の喫緊の課題であり、存立の基盤の強化を確立することである。このような現状を脱却し、健全な運営管理の実現を図るには、非常に厳しいものがあるが、金谷美術館は平成平成22年3月15日に開館し、地域文化を創る担い手として公益財団法人金谷美術館成りを実現し、今後の活動に弾みをつけた。

美術館事業は継続して展観事業を着実に推進することに意義があり、この開館にあと戻りは許されない。そこで、金谷美術館が、今後、健全な財務状況のもとで事業運営を実現するため、次のような事業展開を図っていくことが求められる。

第一に、金谷美術館の存在を、多くの人に知ってもらうために、千葉県富津市金谷をどのようにして知らしめるかが重要である。これを実現するためには、金谷地区だけの人の力だけでなく、多くの人ボランティア活動を主体にした広告宣伝活動、ピーアール活動に支援や協力を求め、これを実現することが重用である。

第二に、広告宣伝の媒体として新聞、テレビ、HP等の既存の広告媒体を活用することはもとより、地域住民と富津市民の協力と支援を得ることが肝要である。一方、美術館の展示品の充実と工夫が必要であり、リーピーターを増加する対策が講じることである。このための方策として多くの来館者の意見やニーズを積極的、迅速に取り入れ、これらを実現するための体制づくりが美術館側に求められる。

第三に、平成24年2月14日に公益財団法人への移行認定の千葉県知事から認定書の交付があり、同日、登記申請を完了し、公益財団法人 金谷美術館を実現した。今後、公益財団法人として、より公益性の高い美術館になることを実現し、また、公益財団法人 金谷美術館を関係者に知ってもらい、より多くの関係者の助言と指導を得ながら、公益財団として健全な管理運営に努めなければならないと考えている。これらのことを実現するため、平成24年度事業として次の事業を展開することとする。

3 平成24年度の金谷美術館の主な事業計画

美術工芸の知識及び向上を図るための展観事業計画（定款第4条第1号）

平成24年度の展観事業として、次の特別展を実施する。多様な美術展を通じ、美術工芸品を観賞することによって優れた美術文化の中で、鋭敏な感性に富み、行動力、実行力の有る若い力を育てるために、地域の街づくり、地域文化と地域起業家を育て、地域産業を振興し、元気ある街づくりの実現に向けて今年度の特別企画展を計画している。

（1）美術工芸品の展観普及事業

事業目的等		展示予定期間	事業概要
趣旨・目的	展観事業の名称等		
<p>（1）地域の美術館として限られた展示面積の中で、良質な作品を展示することにより地域住民に芸術的な素養と豊かな感性を醸成し、うるおいのある生活を営むことができるよう地域社会等に寄与することを目的とした展観事業である。</p> <p>（2）将来性のある地域の小・中学生の情操教育に寄与するとともに健全な芸術的感性を養育することを目的とした展観事業である。</p>	<p>1 展観の名称 収蔵作品展 「立原杏所展」 入館予定者数 （800人）</p>	<p>2012・ 4・7～ 5・13</p>	<p>主な展示作品等 金谷美術館収蔵作品の中から立原杏所の作品を用いて日本美術の美意識、空間意識を、構図とモチーフ、装飾性という3つの観点で紹介する。</p>
	<p>2 展観の名称 久住三郎 「日本画の旅」 入館予定者数（1500人）</p>	<p>2012・ 5・19 ～ 7・29</p>	<p>主な展示作品等 久住の日本美術院展初入選作から最晩年の作品のほか、作画の源泉ともなった雑誌や手記に記された久住の言葉がつむいだ詩、画家・福田徳樹へ宛てた手紙の文章 など約60点の作品・資料によって構成される。</p>

	<p>3 展観の名称 収蔵作品展 「KANAYA ZOO 動物を描く」</p> <p>入館予定者数（1500人）</p>	<p>2012・ 8・4 ～ 10・14</p>	<p>金谷美術館収蔵作品の中から動物を画題として描いた作品を展示する。動物は古くから「描かれる対象＝モチーフ」として扱われてきた。中でも18世紀後半から19世紀前半までの約100年間は、日本絵画史上、最もバラエティー豊かな動物絵画の時代である。画家たちが余技では無く、本気で取り組んだ動物画という世界を紹介する。a</p>
	<p>4 展観の名称 「増田誠 Paris」</p> <p>入館予定者数（1500人）</p>	<p>2012・ 10・19 ～ 2013・ 1・6</p>	<p>写実的描写による作品制作からその作家活動を開始し、渡仏後、様々な表現を試みた。中でも、独自の具象表現を会得するに至り、人間にとって欠く事の出来ない「水」や、広告や看板があり、日々動いている「都市」とそこで生活する「人間」というモチーフを、絵画空間に巧みに組み込むことで作品を「生きもの」として扱っている。</p>

	<p>5 展観の名称 「写真展 藤原幸一 みんなの地球、つなが る生命」</p> <p>入館予定者数（1500 人）</p>	<p>2013. 1.12 ～ 3.31</p>	<p>地球の環境変化に対して 独自の視点でドキュメント している一人にフォトジャー ナリスト、藤原幸一は、 20世紀の思想家であり、建 築家でもあったバックミン スター・フラウ(1895～ 1983)らが提唱した概念・ 世界観である「宇宙船地球 号」の概念をもとに、作者 の写真海洋を柱とした問題 を扱う写真展である。</p>
--	---	--------------------------------------	---

4 関連事業

「美術工芸の教育及び普及のための事業」及び「地域社会の振興（街づくり）の調査研究及び文化活動の事業」等が企画、実施される予定である。具体的な事業内容については、作業を進めて行くことになっている。

5 その他の主な事業計画

次に掲げる課題等は金谷美術館が今後、展観事業を円滑に推進して行くためには、乗り越えなければならぬハードルばかりで、しかも重要な事業である。しかし、これらの事業は、長期的な観点から、計画をたて、多く人の知恵と支援と協力を得ながら推進して行く必要がある。また、これらの問題や課題は多くの展観事業者の共通した課題でもある。先達の力と知恵の協力と適切な助言と指導を得ながら、前年度と同様に真摯に取り組んで参りたい。

- (1) 入館者の倍増計画と実現
- (2) 寄付金事業の推進
- (3) 会員獲得のための事業の推進
- (4) 公益財団法人成りを実現した金谷美術館の活用と振興
- (5) 金谷美術館の広告宣伝活動
 - ① 関係行政機関及び団体・企業に対するご案内
 - ② 富津市民にたいする呼びかけ
 - ③ 千葉県民や対岸の横浜・横須賀に対する PR 活動
- (6) 財基盤の確立のための支援と協力